

# ヒラメ卓越年級の漁獲加入に伴う魚価の変動

福島県水産試験場 栽培漁業部  
平成18年度福島県水産試験場事業報告書

## 1 部門名

水産業－栽培漁業－ヒラメ  
分類コード 19-05-40000000

## 2 担当者

富山 毅

## 3 要旨

2005年に本県沿岸域を中心に常磐海域でヒラメ天然魚の卓越年級が発生した。この卓越年級群は2006年9月に漁獲規制サイズの全長30cmに達して本格的に漁獲加入し、市場での水揚げは急増したが、魚価は暴落した。今後、卓越年級の発生が再度生じたときにヒラメ資源の適正な利用を図るための基礎的知見として、魚価の変動をまとめた。

- (1) 2005年級群は2006年9月に全長30cmに達した個体が底びき網で大量に水揚げされ、大量漁獲は少なくとも2006年12月まで続いた。ヒラメ漁獲量は2006年9月で49トン、10月で116トン、11月で108トン、12月で100トンであり、前年比でそれぞれ178～389%であった。
- (2) 市場でのヒラメ平均単価は2006年9月で1,267円/kg、10月で720円/kg、11月で592円/kg、12月で683円/kgであり、前年比でそれぞれ51～79%であった。底びき網では漁獲量が急増して単価が前年比の36～53%と大きく低下したが、さし網ではこのような傾向は認められなかった。
- (3) 漁獲物は卓越年級である2005年級の天然魚が大部分を占め、その平均単価は約300円/kgと非常に低く、同年級の放流魚は約200円/kgと更に低かった。2004年級の単価も通常の年に比べて非常に低かった。特に1kg未満の個体で単価が著しく低い傾向がみられた。
- (4) 底びき網の水揚げにおいて、ヒラメが過剰であったにもかかわらず、主要な沿岸性カレイ類であるイシガレイ、マコガレイ、マガレイの魚価はヒラメの魚価低下に連動した変動はみられなかった。すなわち、ヒラメの漁獲量の増加は他のカレイ類の魚価には影響しないと判断された。
- (5) 以上のことから、卓越年級が発生した場合には、特に底びき網で魚価が大きく低下してしまうことが示唆された。このような状況下では1尾100円のコストで種苗生産・放流が行われている栽培事業の効果は大きく低下すると考えられた。

## 4 その他の資料等

- (1) 平成17年度栽培漁業中央研修会テキスト集
- (2) 水産試験場HP